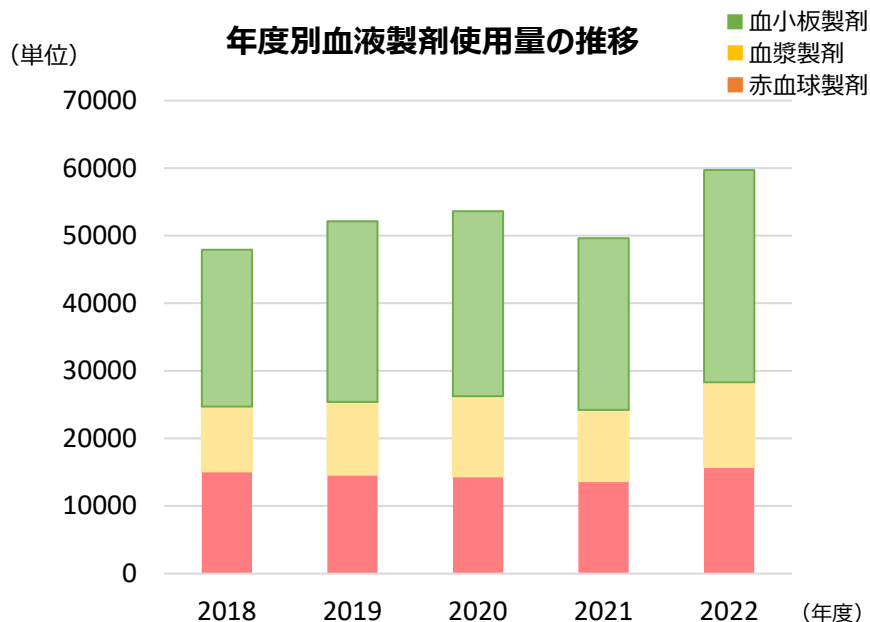


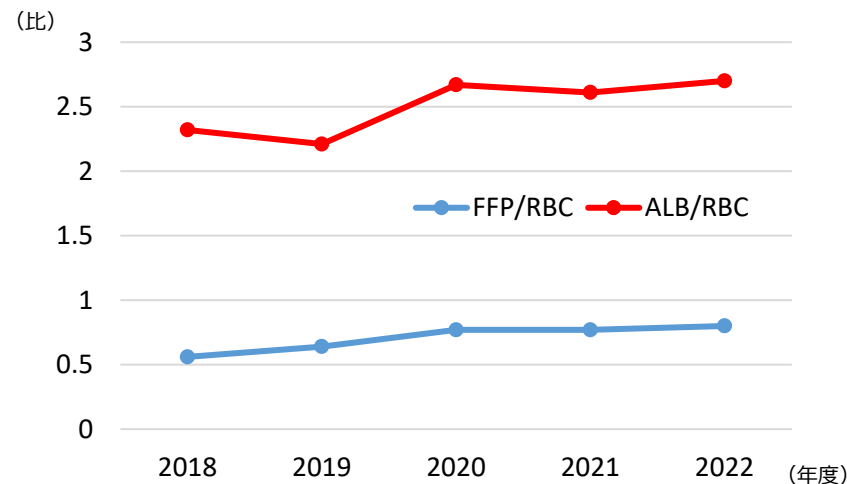
業務内容の推移

<輸血業務> 当院の血液製剤使用量は2014年度をピークに一旦減少傾向となりましたが、ここ数年で適正輸血指標であるFFP/RBC比とALB/RBC比が共に増加傾向となっております。自己血輸血の推進などにより、より一層の適正かつ安全な輸血を目指します。

<細胞療法業務> 末梢血幹細胞やドナーリンパ球の採取・骨髄液処理に加えて、2021年からはCAR-T細胞の原料であるリンパ球採取が開始となり、採取件数が増加しております。CAR-T細胞は製剤によっては無菌的細胞調製を要するものがあり、未来開拓センターと協力して実施しております。今後も高度な細胞療法を推進していきます。



年度別FFP/RBC比、ALB/RBC比の推移



2022年度実績

● 製剤使用量	赤血球製剤	15,757 単位
	血漿製剤	12,564 単位
	血小板製剤	31,395 単位
	合計	59,716 単位
● 採取業務	自己血採取	421 件
	末梢血幹細胞採取 (自家/同種)	38/17 件
	リンパ球採取 (CAR-T/ドナー)	19/8 件
	移植用骨髄液処理 (濃縮/血漿除去)	9/4 件